

### Ⅲ

編集氏の依頼で、北洋の様子は是非書いて呉れと言われて軽く引き受けたものの、単調な毎日とは言え87日の航海記となると、やはり書き度い事で一杯である。『北洋あれこれ』も3回に及んでしまった。貴重な紙面をさいて、何かとまずい文章を皆様のおめをわずらわして心よりお詫び申し上げると共に掲載していただいた編集氏に深く感謝致します。

これ以上雑文を続けて貴重な紙面をさく事は、筆者も心苦しいので、本編の『むすび』と致しまして、増殖担当者として眺めた北洋鮭鱒資源と母船式鮭鱒漁業について感じた事を最後に雑感という事で書いて見ました。この事が少しでも皆様様の参考になれば幸いです。

#### 重要書類・・・・・・・・

漁の方も順調に進んでオカのネオンの灯も恋しくなり、そろそろホームシ

ックという名の病に取りつかられる。特に時化でもあつて退屈を感じるようになると余計に病が悪化する。今日も退屈しのぎに隣室の罐詰検査官のA氏の所に出かける、話しも通り一辺の世間話しではすぐタネ切れとなり、全く刺戟のない話しとなつてしまふが、何時もながら話しは、いきおいY談へと飛躍して行く、こんな事で時をかせいでいる頃、仲積船も逐次漁場へやつて来るようになる。出港以来3ヶ月一歩も上陸出来ない生活と連日魚に追われる乗組員にとっては、内地からの便りが、唯一の楽しみだ。この仲積船に時折慰問品がまよい込んで来る。この慰問品は通称重要書類と呼ばれている。この重要書類は大漁の縁起モノと称して、オカでは公開出来ない、芸術写真、珍本等の秘密回覧が回つて来る。初めそれもパーサーから「只今重要書類が仲積船で参りました」と真面目な顔をして持つて来るので、水産庁より

重要書類でも来たのかと胸をわくわく開いでびつくり……

今年の漁は幸いこの縁起物の重要書類のせい、神武以来のベニ鮭の大漁に見舞われ、仲積船の往来もひんばんで、たくさんのお便りや慰問品を頂戴した、その中にM丸の従兄より重要書類と特級酒の特別慰問品が2回もあり、この重要書類は船内でも多に人気を呼んだシロモノで回覧途中なくなつて、オカに持つて来れなかつたのは残念であつた。これも船上生活の笑いの一コマで、長い船上生活もこの重要書類によつて早く過ぎ去つた感じがしてならなかつた。

#### サロンボーイとシチヨジ……

サロンボーイは、サロンメスルームに集る紳士族のメイド役をするもので、我が輩のような不精族には「頼のみまつせ」の存在だ。朝起きて室の掃除から食事のはて迄厄介になる。そればかりでなく、いかに不精者と云えども髪を伸ばるのだけは、省略することが出来ない。特にサロン族ではヒゲ等を伸ばしていると言つた、顔はあまり見当らない。我が輩もいきおい、カミソリなどを手にする回数をふやさなければならぬ、でも頭髪の方は、いかに器用者と言えども、一人ではどうにもならない。月に一度位は、やはり人並みにバリカン、ハサミの御厄介にならなければならない、この船の床屋さんはボーイサン達である。彼等は仕事の暇を見てやつてくれるわけであるが、大体受け持ちの顔もきまつている。監督官ともなれば、ボーイ長のしなやかな、お手並にありつけるので、バリカン、ハサミの音もさわやかに、眠気を催す事がある。船乗り稼業の男達のはしくれだつた手で、ゴツツイ不器用な手で、バリカン、ハサミを動か

すだろうなどと想像されましようが船員さん達は器用なものだ。もつとも船の床屋さんは、ボーイさん達ばかりではない。船員、作業員の中には、元床屋商売と云つたのがいるし船内のオンヤレには苦勞がいらぬのも、ボーイさん達のお蔭である。

母船では司厨長の事を「シチヨウジ」と呼んでいる。母船内のサロン族、作業員、病人等あらゆる階級の間様の栄養カロリーの献立は司厨長の手によつて行われる。筆者のお世話になつた、シチヨウジであるMさんは船内の「愛嬌オヤジ」で名が通つている。特に作業員の連中に人気がある。何時もアカラ顔でオミキが入つている様で、デツプリ腹を出して、船内を行つたり来たり採配をふるつている姿は眼に浮ぶ、特に仲積船が到着して、食糧物資が入ると大きな腹を重そうに動かしている姿はひとしおなつかしさを覚えている。このMさんはなんと言つても母船の食糧関係物資一切を握つて、いるんだからチヨツトばかりニラミがきくし、船団でのシユウト婆さんの存在である。

#### ドクターと無線局長さん……

北洋船団は荒武者揃いの連中でも、1船団約700人~800人の大世帯ともなれば、ジャバのように怪我人も出れば病人も出る。船団ではこの乗組員の「死命を制する」権利をもつているのが、ドクターである。ドクターはオカで考えている程ヒマ人ではない。3ヶ月の航海中病気になるれば、何んとしても先生のお世話にならなければならない。本船は仲積船から媒介された、流行性感冒が船内に蔓延、相当に先生の手をわずらわしたようだ。作業員はドクターの診断の結果により休養をとることもできるし、良く診断されると、

寒いデッキの上で作業しなければならぬはめにもなる。本船のドクターは次に紹介する局長につぐ愛嬌者で通っている。航海中何か感ずる所が、あつたのか、プリンナースタイルに長髪を切つて皆を笑わせている。これは決して船内で、観音様がたかつたせいではありません……

今世にはめずらしい坊主刈の船団長とドクターの姿が今でも印象的だ。先生は東京のG大の助手で、アルバイトに乗つたらしい、専門は「あの方で」外科についても相当自信があるらしい、漁期間中2人の盲腸手術と4人の外科手術を含む患者を無事退院させ名ドクター振りを発揮させて居る、乗船前から「あの道の話術」にかけては非常に専門的かつ材料も豊富であると聞かされ、比較的ヒマジンの我が輩も一度お話をたまわりに上つたが、その道の専門家となればなるほど……再度お話をたまわりに上りたく思つたが、当方の体の方は全くドクターのお世話になる材料がなく聴講も一度だけに終つたのが、かえすがえす残念であつたが、サロンでのお祝酒にありつく時は、隣り近所のお銚子2～3本がドクターの前に立ち並ぶのは、我が輩と同様であつた。

このドクターと大の仲よしは局長さんのIさんで、ドクターに輪をかけたような偉丈夫で軽く20mを越えそうな大軀である。Iさんは船内随一の人気者で、函館を出てから、恋人や愛妻からの緊急連絡はなんと云つても局長のやつかいになるので、なかなか強気である「俺に勝つた奴は、航海中の彼女との連絡はオミットだよ」と新潟ナマリのある言葉で皆を笑わせる彼氏は、すべての情報網をキャッチするのでサロ

ンでの席も、I氏の新ニュースが話題の中心になるのも当然である、時折無線室に出かけてラジオニュースや野球（ナイター）に耳をかたむける事も出来るのもIさんの許可が必要で何かと接する機会が多く特になつかしさを感ぜざるを得ない。

ドクターと局長の大の仲よしの故にはこうである。Iさんは船内きつての名作家で、Y文章にかけては彼の右に出るものはない。彼等は常にドクターから「あの道の話」を聞いて、新知識を得ては名作を完成するわけだ。作品完成次第事業部の連中が読んで好評を博したのから暇を見て、ガリ版印刷にして、作業員、独航船の連中に、「操業適正要領」のみだして配布される事になる。この特別印刷物が独航船の明日への大漁の糧となることはいうまでもない。

漁期も終期に近づき、割当漁獲頓数の漁獲も終つて、帰途につくと、そろそろ、函館のキャパレーから「大漁おめでとう、入港をお待ち致しております」の電信が入る。局長のニコニコ顔で電文の回覧が始まる。一方ドクターも函館に近づくにつれて、船団幹部連との密交渉が始まる。それは今流行の強精ホルモンの注射により情欲をたかめるもので、出迎えの愛妻や恋人、飲やの姉さんにサービスすると云うものです。船乗り稼業も毎年港に入る度新婚気分でありつけるのもこれ等のせいかも知れません……何んと言つても船内の人気者はドクターと局長の二人舞台の観がある。

#### サナダムシ……

人間の腹の中の寄生蟲と聞いただけで、ぞつとするが、この寄生蟲の中でサナダムシの寄生は最も恐ろしいもの

で、このいやなサナダムシの中間宿主が鮭鱒属である。毎日の魚体測定でこのサナダムシになやませられる。鮭の腹をさいて、垂門垂の中にぎつしりからみついている1m内外のサナダムシを眺がめると、思わず鮭の味も半減するし、鮭鱒の好きな方には、虫下しをすすめたい気持で一杯だ、これは決して薬屋の宣伝ではありません、筆者が毎日魚体測定で観察した所では、最もサナダムシの寄生率の高い魚種は、シロザケで95%以上の寄生率を示している。こんな事を考えると因果関係にあるアキザケにも充分サナダムシが見られなくとも卵が魚体に寄生している事が考えられ御注意御注意と言つた所です。

#### 魚体測定……

母船監督官の役割は、船団操業上の取締り業務の外に生物調査の仕事がある。これは毎日行う魚体測定で、北洋の寒いデツキの上とあつて少々つらい仕事の部類に属する。本年度の魚体測定調査は、毎日ベニ、シロ、マス各30尾ギン、スケ、各15尾計20尾程度の魚を、余程の理由でもない限り調査しなければならぬ。勿論助手は一人専属につけてはくれるが、なかなか骨が折れる。この調査でこまる事は、北洋の魚は非常に鱗がはがれ易く、鱗が採集する場所についている魚を、ランダムにサンプリングするので、なかなかたへんである。鱗のとれ具合は、ベニは比較的とれにくい、シロはややとれ易い。マスになると全くとれ易い、大漁した場合、時化でもあつて魚が痛むと全く丸坊主になつてしまうので、サンプリングに相当なやまさされる。サンプリングした魚は、先づ採鱗、計測に入るが、5月の時化とガス、ミゾレ、

雨、せつかくの採鱗したガムカードもグチャグチャ、更にたいへんなのは、精巢卵巣調査である各魚種30尾の中15尾について卵巣精巢の重量を計るわけで、5月上旬の漁期では、卵巣重量20g内外精巢重量1g内外から計測され、漁期が進むにつれて卵精巢の重量も増加して卵巣重量300g内外精巢重量70g前後迄になるが、これは簡単に計測すればよいのではないかと言いますが5月上旬の未熟の卵巣を計る場合銀秤りの皿にミゾレや雨がたまつただけでも誤差を生ずる大きさなので、その計測に骨が折れる、7月に入つて卵精巢が今度大きくなると銀秤りの皿に一辺に乗らないし、精巢は皿に乗るにはのるが、船のローリングや計測操作でツルツル落ちるし、なかなかつらいものです。ざつとこんな苦勞の一端を紹介したが、乗船中測定した尾数もベニ1,500尾シロ1,500尾 マス1,400尾ギン440尾 スケ750尾計5,244尾の測定を行つた事になり、苦勞がしめじみと脳裡に浮いて来る。

#### キングサイズ……

現今の女性美も八頭身時代とあつて全く世はキングサイズの時代と言つて良い。

北洋の鮭鱒属の中にも小マグロ程のキングサイズのものがある。それは云うまでもなくマスノスケで本船の最高は8メ目全長1m50cmという大物が漁獲された。二人で立つて竿秤りにかけるが、それでも尾鰭が地面つく程で、北洋での魚ではサメ、イルカをのぞいては先づキングサイズのトップを行くでしょうあの大きな魚体で河に遡るのでも眺められたら、さぞ壯観であろうし、もし北海道の河川にも遡るものであつたら、捕獲についても研究もした

ければならないし、厄介ものあつかいになりかねないでしょう。いざ検卵にでもなつたら大変な事になるでしょうとつくづく考えさせられる。

次に北洋でとれるオシヨロコマであるが、北海道でみられるオシヨロコマはせいぜい15~6cmのものが普通とされているが、北洋で漁獲されるオシヨロコマはサケ、マスに匹敵する大きさである。勿論海に下つたせいかも知れませんが、とにかく大きいにはおどろかされる。母船内では美味しくと言う事で、別名ネコマタギと言つて母船では独航船より買上げしない事になつている。会社によつては専ら作業員の土産魚としている所もあるし、独航船の連中は乾燥して専ら食用に供している。北洋のオシヨロコマはどこでも棲息しているわけでもない。主としてカムチャツカ半島の沿岸に多く棲息しているものと考えられ、本船ではコマンドルスキー島の北方では多量に7月中旬に入つて漁獲された。この種の害魚はむしろ海でも多数漁獲した方が良いでしょう。

### 標識魚……

魚に迷子札をつけて標識放流試験が行われていることは良く知られていることである。それは魚の洄遊状態とその魚の資源量を把握するための試験であるが、資源量を推定する方法は非常にむづかしい。母船監督官は標識再捕報告の任務もおわされている。本年度の標識魚、再捕業務は日米加漁業条約によるW 175度線再検討の為めの北太平洋漁業国際委員会の研究計画でアリユウシヤン列島のアダツク島附近より標識されたもので、本年度は西経漁場のオリエトル地区が大豊漁であつた関係本船ではベニ、シロ、マス合せて9尾

(デスクタツグ型、スパゲテイ型)の再捕を得た。これを全船団の再捕数を考えた場合、現在のW 175度線は問題になろうし、本年度のベニの大豊漁は思わしくない地域の大漁となつて、ネットマーク魚、産卵群の減少等の点を考え合せた場合北太平洋漁業国際委員会の重要な論題となりそうである。

他に當場より放流された鮭鱒の再捕業務がある今等は常呂川4年魚の標識魚の同帰年次とあつて、再捕に充分注意した結果、標識らしきものも(組合せ確実にできものを)含めて97尾の再捕を得た。この内標識組合せ確実の7尾(右腹鱗、脂鱗)もみつきり、鮭鱒増殖事業の重要性も認識させられた。この7尾については、作業員の連中に特別賞品附けの、かいがあつてみつかつたし、社員作業員の協力にも全く感謝した次第である。

北海道から放流された稚魚が、一人前の親魚になる為めはるばる北洋の海迄やつて来たのだと思うと、全く嬉れしさを感ぜざるを得ません。

### ベコウオ……

これは独航船のホマチ魚或は隠匿魚の事で北洋鮭鱒の特有語である。ニシン漁場等でニシン枠の積取りのヤンシユウがサンパ船に多少の魚をホマチして、帰郷の際の土産魚として別名フナクソ等と呼んでいて、ベコザカナも此の種に属している言葉である。

鮭鱒の場合は許可条件により漁獲した、魚は全部母船揚げしなければならない事になつているし、各独航船毎に割当頓数もあるので、ホマチ魚は絶対認められない事になつている。正式には全部割当ノルマの範囲で土産魚用として各独航船に積み込まれるが普通である。

このペコウオの適発という業務が監督官にある。7月中旬近くになつて、ノルマ達成の独航船も現はれて来る頃になると船団切揚げの為めの取締り業務に入る。これが各独航船のペコウオの検査であるこの場合各独航船毎に一隻ずつ船内くまなく検査するわけです。北洋のあらくれ男達の寝室は勿論の事各船艙に入つてみるが、人権尊重の今日、余り感じの良くない仕事の部類である。ペコ検査の他に塩量検査、予備網封印解除等ネズミのように船艙に入る監督業務である其の都度お互にいやな思いがする。こんな検査の都度あらくれ男達に海にでもレッコされるのではないかと冷汗せという所だ、監督官の業務にもこんなつらい事がある。

#### 帰りコース……

本船団の割当ノルマ5,958 屯を目標に連日操業が続けられ、鮭鱒と共に明けてくれた、生活も7月に入つて来ると、北洋の海も夏型となり、デッキの上も気分がそろそろ良くなる頃には、船上生活にもあきが来る、その中に7月18日の待望のノルマ達成の日がやつて来る。本船の最後の操業漁区はコマンドル島の北方に当る207区、母船の位置は $58^{\circ}-20'N$   $167^{\circ}-01'E$ を示し、この漁区は日ソ漁業条約による7月20日以降の操業禁止区域とあつて、監視船より、本日の操業をもつて本漁区より退避せよの電信が入り、緊迫した空気のうちに、ノルマ達成による操業中止を監視船に打電した。早速赤白の祝モチが全員に運ばれ、ノルマ達成を祝つた。18時30分一部独航船に最後の油補給を行つて、別れの汽笛を合図に針路をSEにとり帰港の途についた。あの時の喜びの気持は、何んともえない

嬉しい気持である。幸い大漁にめぐまれ船団3番目に帰途につくとあつて、船団全部が喜びに包まれた。帰航となれば、独航船の方もはりきつて船足も軽くついて来る。7月18日切り揚げ、函館入港7月28日早朝と決まつて、いよいよ帰りコース10日間の整理作業に入る。我が輩の方の仕事も、最終総漁獲数、製品別生産高を報告、資料の整理にとりかかる。作業員は各工場機械の取りはずし、数取り台の取りこわし等の仕事にかかる。船内も日1日と南下するにつれて暖かくなつて来る。函館に近づくにつれて船内も上陸気分に取りつかられる。独航船からはカン高いレコードの音楽が流れて来る。作業員の連中もそろそろ入港後のノロケ話しもでる………

7月27日5時30分86日振りに日高山脈がきれいに眺められ、やれやれ無事帰れたのだなあと安堵の念をいだいた。

#### 入 港……

北洋かせぎのベテラン連中でも毎年味じあう、切り揚げ決定の喜びと、入港時の喜びは、何度味じわつても忘れられないと云うが、全くその通りだ。我が輩のように最初のものでは、なをさら印象的である。27日夕方の87日振り故郷の山々に接し、船上生活も今晚のみと思えば、余計に寝つかれない、28日午前5時30分恵山岬をかわして、遠くに函館山を眺めた時は、全く嬉れしかつた。沿岸には函館名物のイカ釣り発動機船が港に何かつて、正にオモチヤの船が多数走つているように見える。午前7時30分函館港外に一時停泊税関の検査にかかる。本日の入港は本船より先に入港のE丸船団と午後入港予定のK丸船団だ、税関検査も約一時間程で書類の手續きも終つて、入港準

備で、パイロットの案内で待望の岸壁に接岸である。78日振りの上陸とあつて、この間の待たされる時間の長く感じる事、全くたえられない気持である。

港内に入ると、函館市の入港観迎のパトロール船による拡声器から流れる「御苦勞様でした」の女性の声が第一に聞かされ、78日振りに本物の♀さんとあつて、今までも印象に残っている。

9時接岸、岸壁には多数の出迎いの人でうずまつている。間もなく出迎いの人の乗船がゆるされ、久しぶりの対面とあつて、船内到着所喜びにつつまれている。我が輩の最後のビズネスルームも出迎いの妻や親戚の人で満ち、無事帰還のパーティを行つた。M丸の従兄も出迎いてくれて、しばらく北洋の話してくつろいだ。その後サロンで入港式を行い社長や重役連中からの慰勞会がもうかれ解散した。

### 雑感……

最後に「むすび」としまして、簡単に増殖担当者として北洋母船式漁業をまのあたり眺めて感じた事を書き度いと思う。この事は、北洋の鮭鱒は日米加ソと種々と国際的にも問題になつていだけに、鮭鱒の増殖は重要だし少しでも皆々様の参考になれば幸いである。

北洋鮭鱒資源は大きい 母船式の鮭鱒漁業を見て先づ第一に感ぜられる事は資源の豊富な事である。この区域が鮭鱒の成育地帯である事は、いうまでもないが、この一帯は恐らく沿海州、樺太、カムチャツカ、アラスカ、カナダ、北海道、千島というあらゆる種属の鮭鱒が成長する為にこの地域を索餌洄遊するものと考えられる、ざつと母船式だけの1日の水揚尾数は50万～200万尾になる、これは北海道の年漁

獲量(秋鮭)に相当する、反面我々が増殖を担当している、北海道の利用資源が之等に比べると非常に小さなもので、いささかがつかりだ。これを更に海獣(オットセイ、アザランその他)に例を取つてみると、現在北大平洋に棲息する数がざつと25万頭に蓄殖したと推定されている、今仮に北海道から放流される雑魚の内1%が親魚になるものと仮定した場合、年々放流される稚魚平均3億尾として約300万尾の親魚が期待されるが、今海獣1頭が1日平均3尾の鮭鱒を食べるとしても2日足らずの餌料にしか相当しないことになる。こんな事を考え合せると如何に北洋の鮭鱒資源が大きい事が推察されるし一時は壊滅と迄言われた、オットセイ条約による保護規制処置により、かくも増加したとなると、鮭鱒資源上からも、そろそろ間引きの時期が到着したものと考えられる。

母船式鮭鱒漁業の漁獲努力は非常に高い 本年度母船式鮭鱒漁業は16船団500隻の独航船の操業規模に及び、操業も日ソ漁業条約により、オコック海区及びブルガニーライン内では独航船一隻当たり投網反数は12km(274反)、ライン外では15km(約300反)以下となつている。これを全船団の1日の延附設投網反数をみると、平均して13.5km×500=6,750km(約143,500反)となり、更に本年度の操業数を平均70日で計算すると、6,750km×70=472,500km(約10,045,000反)の莫大な長さになり、この網の長さは地球を約11周という莫大なものとなる。

ここで考えなければ、ならない事は、最近日ソ漁業委員会、日米加の北太平洋漁業委員会で問題になつてい

る、ネットマーク魚（網抜け魚）の多い事や、河川産卵群の減少等の問題を考えた場合、母船式鮭鱒漁業の漁獲努力の非常に大きいものと推察される。又本船が本年度操業期間に米国標識魚9尾を再捕し、北海道常呂川のものと思われるもの29尾等再捕され、これを全船団について考えた場合、相当地に漁獲努力が高いものと推察される、

上記の点より母船式鮭鱒漁業の操業区域内には、アラスカ、千島、カムチャツカ、北海道等から生産された鮭鱒が棲息している事が考えられ、本漁業は公海上の操業とは言い資源の問題については充分注意を払わなければならない。鮭鱒は他の魚種とはことなり、公海上で生産されるものでなく、その国々の河川で生産されるもので、一般の公海性魚属とはある意味では異なっているもので、稚魚生産国が常に産卵群と沿岸、沖合、の漁獲バランスを考えた操業形態でなければならないと考える、現実の問題として、取り上げられている鮭鱒産卵群の減少については、沖合漁業によるものか、沿岸漁業によるものかは、別として、今後の鮭鱒漁業に重大な影響を及ぼすものであつて、一日も早く科学的論拠の上にたつた、適正漁獲量による恒久的鮭鱒漁業の確立態制と予備資源の管理が望ましいものである。

未熟魚が魚獲されている 母船式漁業は流網により鮭鱒を魚獲するので、どうしても多少の未熟魚の魚獲はまぬがれないが、この概要を魚種別にみると、ベニの場合は母船内では殆んど見られないが、一般に独航船から母船に揚げられていない、2年魚が少量ある程度差程目立つた程度でない。マスは全期間を通じて1年魚と思われる魚体

を見た事なかつた。シロは本年度の場合形態から言つて3年魚が、非常に多かつた。スケは全体的に見て全魚種を通じて最も多く、当才魚から2~3年と思われるものが、ベーリング海に入つて特に多い、以上概要を述べた通りやはり相当数の未熟魚が魚獲されているもので、これ等の点については、網目の制限、幼魚棲息場所の退避等で或る程度緩和されるもので特に注意すべき事項である。

制限漁獲量は魚種別に 鮭鱒資源は各魚種によつて資源の状態が異つているもので、どうしても単価の高い需要の多いベニを追う事になるが昨年度の様になるとベニの漁獲量が全体の50%もしめるとなるとベニ資源の枯渇はまぬかれない事になるし、漁場によつて或る程度さけられる事になるので、各魚種の資源の状態により魚種別の制限頓数がのぞましいものである。

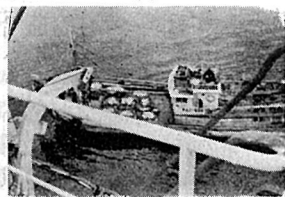
北洋の鮭鱒研究機構の不備 現在の研究機関の在り方として、研究テーマも重要水産業に基づくものにこそがれるもので、これ等の点から考え合せて、北洋の重要産業である、鮭鱒の資源調査に対する熱が余りにもなさすぎるのではないか、もつと一貫した研究機構を確立させ、漁業調整、規制の問題をより科学的論拠の上にもつべきであるし、もつともつと北洋の鮭鱒に関するデータの蓄積が必要であろう。

母船会社はもつと増殖に関心を持たなければならない 北海道から放流した標識魚が再捕された等北海道から降下した鮭鱒が相当数漁獲されているものと推察され、北海道の鮭鱒の産卵群の減少等の点より増殖事業に対しては大いに、協力すべきであらう。



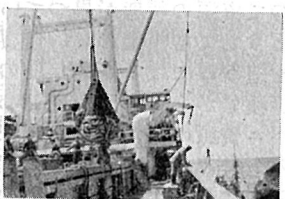
## 北洋鮭鱒漁業寫真帳

(1)



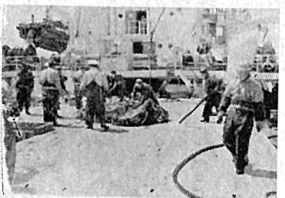
独航船が母船に漁獲物を積んでやって来る

(4)



モッコが母船の上に揚げられる

(7)



モッコから魚をあけるためモッコの下組がウインチで揚げられる

(10)



数えられた魚は魚貯めに入られる

(3)



ボーションの合図で魚の入ったモッコを母船のウインチで独航船より揚げられる

(6)



ウインチの巻がはずされる

(9)



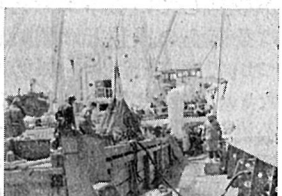
モッコ毎に正確に尾数が数えられる

(2)



母船之接舷荷揚開始

(5)



モッコが数取台の上に揚げられる

(8)



モッコから魚があげられる

(11)



1日の全独航船の漁獲物が揚げ終ると母船も艇艀の山て埋る